

川上博司議員

行政手続きのオンライン化を進めるためマイナンバーカードを活用すべき

マイナンバーカード・びったりサービスを活用すべきでは

川上 国に歩調を合わせて、行政手続きのオンライン化の推進とデジタルトランスフォーメーションに取り組むことは当然として、大事なことは今からでも、取り組める可能なかぎりのオンライン化を進めるべきだと考える。今からすぐにも実現可能な行政手続きのオンライン化を進めるため、マイナンバーカードを活用したマイナポータル・びったりサービスを活用すべきではないか。

行政手続きにおける押印廃止について

川上 行政手続における押印廃止と書面主義の見直しについては、どのように取り組んでいくのか。

総務部長 国の法令に基づく押印見直しについては、国のガイドラインが示されてから対応していく。市独自のものが740件あり、現在洗い出しを行っているののでできるところから早急に見直しをしていきたい。

デジタルトランスフォーメーション「インターネット技術の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念のこと。

倉野嗣雄議員

職員の意識改革を進めるべき

本市の定住対策について

倉野 最重要課題である定住対策は人口減と併列して施策を増やしていくと考える。現在の状況はどうか。

市民生活部長 平成25年で総住宅数17680戸中、空き家は4650戸で、全国平均の13・5%の2倍の26・3%となっている。

倉野 空き家を活用できる組織を作るべきではないか。

市民生活部長 田舎暮らし推進係が行っているが、特定空き家とまらないよう力を入れて対応する。

行財政改革について

倉野 人口減や災害また新型コロナウイルスなどで市の財政は非常に厳しい状況に有る執行部は、どのように認識しているか。

市長 市の財政状況から見ても改革は待たない。不転の強い決意でやっていく。

職員の意識改革について

倉野 令和2年3月の出馬表明時に、職員の意識改革を掲げたが、今でも考えは変わらないのか。

市長 前回の答弁を変える事はない。やらなければならないと思っている。

倉野 高梁市職員は就職する時宣誓しているが、時が過ぎると、市民全体の奉仕者としての思いが希薄となっているのではないかと。

市長 色々な職員研修に参加させているが、管理職を含めて、初めて就職した時の気持ちを持てるような研修を行っていくと考えている。

特定空き家 倒壊の危険があるなど、適切な管理がされていない空き家のこと

森和之議員

妊婦の不安解消のためにも更なる女性隊員の増員を要望する

ママ・サポート1915333

森 平成27年度から令和2年度までの救急搬送時において、問題点はなかったのか。

消防長 53件の救急搬送時に2件の車内分娩があったが、母子ともに健康であった。

森 妊婦の不安解消のために助産師の同乗は考えられないか。

消防長 24時間365日、分娩のための救急搬送に対して、助産師を配置しておくのは非常に困難である。現在、1人ではあるが高梁消防署初の女性隊員が県消防学校で救急課程を受講している。訓練を重ねた後には、勤務時に分娩の救急搬送があれば同乗させて妊婦の不安解消につなげたい。



森 妊婦の不安解消のためにも、更なる女性隊員の増員を要望する。

部活動の再編について

森 生徒数が減少する中で部活動の存続が危惧されている。市としてどう取り組むのか。

教育長 一つの学校で解決できない場合は、地域の方、競技団体の力を借りて学校だけでなく地域で少人数の部活動を支えていきたい。国の方針も令和5年をめどに土日の部活動については地域でこども連を指導できる仕組みを作ったり、それに対して支援をするといった方向性が示されている。高梁市もその方向性に舵をきっていい。

森 生徒数が減少する中で部活動の存続が危惧されている。市としてどう取り組むのか。

森上昌生議員

選択肢のない市政を避けるための市長の見解を問う

選択肢のない選挙をどう受け止めるのか

森上 3期の市政を担当してこられたが、この度の無投票選挙をどのように受け止められるのか。

市長 市長選挙と議会議員選挙では若干おむきが違う。市長選挙はそれまでの成果を踏まえて無投票もありうるが、その分、責任も重い。議会議員選挙では、さまざまな事情もあるだろうが、議会と執行部が両輪として機能して、市民サービスが成り立つ。課題があると認識し、議会とともに議論、協議をすすめる必要があると考えている。

こうした状況を再び繰り返さないためには

森上 市民に選択肢のないダブル選挙を繰り返さない方策を、市長としてどう考えるか。

市長 政治に対する関心が薄れてきている。小・中・高校生議会、女性議会を開催しているのは、意見を聞かせていただくことも、市役所の仕事を理解し、深めてもらうためであるが、残念ながら、今年はコロナ禍により開催できなかった。こうしたことは人づくりに繋がり、高梁市をこうしたいと思う、それを担っていく人を育てていくことが大事だ。

